

めざせ、カシオペア連邦の大地!!

2006.9.16 No.1(創刊第1号)

編集・発行 龍谷大学社会学部 脇田研究室

[HP] <http://www.soc.ryukoku.ac.jp/~wakita/> / [Blog] <http://blue.ap.teacup.com/wakkyken/>

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5 龍谷大学社会学部 脇田研究室

[E-mail] wakita@soc.ryukoku.ac.jp

ありがとう、カシオペア連邦。



カシオペア連邦と3団体の活動地域

Google Earth をもとに作成しました。

表記は、市町村合併前のものです

龍谷大学社会学部・脇田研究室では、8月29日～9月1日までの4日間、NPO 法人カシオペア連邦地域づくりサポーターズの全面的なバックアップのもとに、岩手県の県北(二戸地方振興局管内)で地域づくり活動をされている、どんぐり村(一戸町)、門崎(かんだき)むらづくり推進協議会(二戸市浄法寺町)、そして笹渡地区みんなで考え隊(軽米町)の3団体を訪問(スタディ・ツアー)しました。

参加したのは、脇田ゼミ生有志5名(男子3名、女子2名)。「岩手に、“地域づくり”を学びに行かないか」という、私からの突然の提案に、パッと手を挙げた学生たちです。

カシオペア連邦では、皆様のご指導のもと、様々な体験学習を行うことができました。また、楽しく有意義な交流の場をもつことができました。本当にありがとうございました。学生たちにとっては、一生忘れられない経験になりました。ところで、今回のスタディ・ツアーは、以下の日程で実施されました。8月27日の午後11時過ぎ、学生たちは、京都駅から高速バスでまず東京に向かいました。翌朝、東京に到着すると、こんどは JR 在来線を乗り継いで「一路、岩手へ!!」、といたいところですが、実際には何回も列車を乗り換え、28日の晩に盛岡にやっと到着しました。ほぼ、丸1日かけての移動です。学生時代でないと、なかなかできない経験ですね。

盛岡に到着するとすぐに、IGR の職員の皆さんと交流会を持ちました。翌日29日はどんぐり村、30日は門崎むらづくり推進協議会、31日は笹渡みんなで考え隊。3つの団体で、体験学習を重ねました。9月1日は、盛岡に移動し、岩手山麓を観光。その晩は、私がかつて勤務していた岩手県立大学総合政策学部の同僚や卒業生らとの交流会。翌日9月2日は、朝からまたまた丸1日をかけての関西へ移動ということとなりました。以下は、カシオペア連邦でお世話になった皆様への御礼と現在の気持ちを綴ったものです。最後までお読みいただければ幸いです。

(脇田 健一)

「自然と共に生きる生き方を考えたい」

— どんぐり村 —

筑摩祐樹



初秋の空もさわやかな季節になりましたが、いかがお過ごしですか。先日は、私たちの訪問を暖かく迎えてくださり、本当にありがとうございました。私は、初めての東北、初めての岩手県ということで、少し緊張していたのですが、村長である赤屋敷信一さんとタマさんの温かいお心遣いにより、一生の思い出に残る体験が出来ました。感謝の気持ちでいっぱいです。

【写真左】タマさんから裂織の指導を受ける。

私たちのうちの誰かが「トモロコシが食べたいな…」とつぶやいたのをちゃんと耳にしておられて、翌朝早くから遠くのお知り合いの所にまで出かけて、私たちに食べさせようと準備をしてくださいましたね。本当に、ありがとうございました。

関西に戻った今、どんぐり村での体験や、信一さん・タマさんのお話を思い出しながら、私が今まであたり前のものとして意識すらしていなかった普段の生活を、これから見つめなおしていこうと思うようになりました。どんぐり村での生活こそ、本当の意味で人が生きるということなのでは、そう感じたからです。自然に働きかけ、自然と共に生きる。これは本当に素晴らしいことだと思います。私の暮らしている地元は、滋賀県の農村なので、身の周りには実は自然がたくさん残されています。しかし、その自然の存在を自分たちが意識していないのでは、意味がありません。これからはもっと普段の生活の中においても自然に関心を持ち、自然と共に生きる生き方を考えていこうと思っています。

【写真右】信一さんから、どんぐり村の“精神”や、戦争や戦争に故郷の戻ったときの話を、ノートをとりながら真剣に伺っています。



今回の訪問は1日という大変短いものだったため、どんぐり村や村長さんの哲学について知るには時間が全然足りませんでした。次回に訪問したときは、もっと詳しくどんぐり村について知りたいし、信一さんやタマさんのお手伝いもしてみたいと思っています。その時には、いろいろとご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞよろしく願います。最後になりましたが、お体に気を付けてお過ごしください。この度は、本当にありがとうございました。

【写真上】どんぐり村を出発する前に、全員で撮影しました。背景は、「どんぐり村訓」です。一番右端の男性は、29日からほぼ丸一日、わたしたちに御付き合いくださった、地域づくりサポーターズの平野さんです。大変お世話になりました。また、深夜まで興奮して眠れない学生たちが、ご迷惑をおかけしました。

「むらづくりの原動力」 - 門崎むらづくり推進協議会 - 山本和裕



関西では少しずつ稲刈りが始まり、ちらほらと赤とんぼが飛ぶ季節になりました。その後、いかがお過ごしでしょう。先日は、初めての訪問にもかかわらず、門崎の皆さんに暖かく、熱烈に歓迎をしていただき、とても感動しました。本当にありがとうございました。そば打ち体験では、水車小屋でそば粉を引くところからスタートし、生地を作り、髪の毛のように細切り麺状にするといった、蕎麦をいただくまでの作業を自ら初めて体験し、そのことを楽しんだ反面、伝統的な作り方で蕎麦を作ることが、いかに手間隙がかかることなのかを実感しました。機械にたよらず、水車

「浄門庵」の自然の力と人間の力だけで、最初に材料を用意するところから最後に美味しくいただくまで深く印象に残る体験ばかりでした。もと水田だった場所を利用した魚の養殖や、炭焼釜にも驚きました。

【写真上】はじめての蕎麦打ち体験。蕎麦のはずが、幅が名古屋の「きし麺」になってしまっています。

「あずまや屋」での交流会では、ジンギスカン、イカ、ニジマスを食べ美味しくいただきました。お母さん方に作っていただいた伝統食のひつまみ、自分たちでつくった蕎麦(ご指導いただき、手伝っていただいたわけですが…)、そして取れたての野菜、どれも普段いただくことのできないものでした。食べものの話ばかりで恐縮ですが、特にラム肉はおいしかったです。取れたてで新鮮なトウモロコシとトマトの甘さには、とても驚きました。地元でつくられたお酒も、ずっしりと重い貫禄のある味がしました。伺ったお話からもわかりましたが、むらづくりのポイントのひとつは、皆で楽しく食事(お酒も)を一緒にしながら、地域の夢を語りあうことにあるのだと深く納得しました。



【写真右上】あずま屋での交流会。お酒も入りながら、話しがはずみます。門崎のむらづくりの実践をみて、近くの集落でも、あずま屋をつくるようになったとお聞きました。



村で一丸となって夢を描き、協働しながらむらづくりを進めていく背景には、一人一人の、協力的で優しい思いやりがあることを知りました。それが、村を動かす源となっていることも実感しました。人は1人では生きていけない。協力・協働して生きていくことが大切なのだということを、心の底から(胃袋の中から)理解できました。このような経験を、大学の研究だけでなく、自分のこれからの人生にも活かしていきたいと思えます。

【写真左】新鮮で美味しいプチトマト!!

「胸に響いた大切な言葉」 - 笹渡地区みんなで考え隊 -

吉澤晴香



笹渡のみなさん、こんにちは。関西も、朝晩はすっかり涼しくなりました。その後、お元気でお過ごしでしょうか？さて、先日の訪問では大変お世話になりました。本当にありがとうございました。岩手では、私たちにとっては普段出来ないことばかりを経験させていただいて... 本当に濃くて楽しい時間を過ごすことができました！関西に帰ってきてすぐ、みんなで「あ～岩手戻りたい～」と言っていました。個人的に、笹渡で最もインパクトがあったのは、田中さんのところの採草地です！行った瞬間、思わず「うわ～～っ!!」と叫んでしまいました。広くて気持ちよくて、本当に「すごい！」の一言でした。

た。360度、雄大な景色に囲まれて、もう、ひたすら大・大・大感動でした！！

【写真上】軽トラックにのせていただき、採草地を走る!!「大・大・大感動!!」の瞬間です。

交流会では、みなさんといろんなお話が出来ました。今回のことがなかったら、きっとお会いできなかったのだろうな...と思うと、この出会いがとても大切なことに思えます。岩手に来て、こうやってみなさんと交流できたこと、本当に良かったです。初め、皆さんにあんなに歓迎していただけるなんて思ってもいなかったものですから、とてもびっくりしました。あんなに暖かくしていただき、本当に嬉しかったです。



【写真右】笹渡の皆さんでつくった道しるべ。



もうひとつ、私が、すごく心に残ったことがあります。それは、交流会の最後に考え隊の隊長さんがおっしゃったことです。「私たちは地元のことを愛しています。みんなで無い知恵を出し合って、なんとか良くしようと頑張っています。」という言葉です。私は、皆さんがどう生きてこられて、どのようなお仕事をされているのかも、詳しいことは何もわかっていないのですが、この隊長さんの言葉を聞いた時に、すごく想いが伝わってくるというか、すごく強い気持ちが胸に響いたというか...。そのとき、ここに来て、みなさんに会えて本当に良かったと思いました。そんなふうに、自分の住んでいる地域の

ことを想えることが、すごく素敵なことだと思いました。今回の旅で、行く先々ですごく暖かくしてもらって...改めて人の暖かさを感じました。岩手に来て本当に良かったです。本当に感謝です。ありがとうございました。このことは絶対、ずっと忘れません。またいつか、是非とも岩手に行きたいと思います。その時はどうぞ、よろしく願います。では、みなさん。お元気で。

【写真上】公民館での交流会。蕎麦カックを大蒜味噌で美味しくいただきました。写真では、「大阪弁」で書かれた絵本を「軽米弁」で読まれています。やはり、故郷の言葉は、心にしみいるようです。会場は、大笑い。

「地域に根ざそうとする強い意志」

— IGRいわて銀河鉄道 —

石崎彩



岩手銀河鉄道のみなさんこんにちは。そちらは、ずいぶん秋の気配が深まり、少し肌寒さも感じる気候に移り変わったことと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。関西は朝夕涼しくなりましたが、昼間はまだ残暑があり、岩手の涼しさが恋しくなります。

【写真左】盛岡駅到着後、駅で待っていたいたIGR若手職員の方に案内されてそのまま宴会会場へ。職員の方の情熱に、学生一同感動。ちょっと手荒い歓迎も、よい思い出ですね。

先日は、岩手・盛岡駅に着いてすぐの私達を、暖かく迎えてくださりありがとうございました。短い時間ではありましたが、みなさんの貴重な意見を聞かせていただき、一緒に岩手の食とお酒をいただきながら、とても有意義な時間を過ごすことができました。大手企業の歯車の一部として働くのではなく、地域に根ざしたいわて銀河鉄道の一員として、「どうすればもっと地域の皆さんの足となれるのか」、「いかに安全性、利便性を維持していくのか」といった考えや強い意思を持って、一人一人が懸命に働いておられることを、皆さんの会話の端々から窺い知ることができました。



【写真右上】歓迎会の翌日(29日)、朝、IGR 盛岡駅の事務所で、地域社会とIGRの関係についてお話しを伺いました。



翌日、29日に銀河鉄道に乗せていただいたとき、列車で車掌さんが扉のボタンを押さないでいる老夫婦のお二人に対して、すぐに駆け寄りボタンを押してあげている姿を目にしました。些細な行動なのかもしれませんが、このような細やかな気遣いが自然にできる方を見て、いわて銀河鉄道で働くみなさんの地域貢献への姿勢が本当に強いものだ実感することができました。また、バースデー切符やバス会社との共通定期券の発売等の企画内容を説明していただき、地域の困難な実状の中で様々な取り組みをなされていることを知ることができました。今後岩手銀河鉄道が地域の人々にとって、ますますなくてはならない存在になることを期待しています。

【写真上】事務所で説明を受けたあと、大内部長直々に、一戸駅までご案内をいただきました。お忙しいなか、ありがとうございました。

「どこに行っても新たな発見」 - カシオペア連邦地域づくりサポーターズ - 森川 諒



「岩手には興味がない」これが“過去”の僕でした。それは、岩手と聞いて何かを連想することができなかったし、自ら進んで行きたいと思う場所ではなかったからです。テレビなどで見かける、いわゆる田舎と大自然の風景しかないと思っていたからです。今回の岩手訪問の動機も、「この機会に岩手を訪れないと、おそらく一生行くことはない。」といったものでした。

しかし、本当の現実と直面した時、僕は感じました。見るもの・聞くもの・触れるもの、どこに行っても新たな発見。新鮮な喜び。未知の領域。学ぶことの楽しさ。こ

の「カシオペア連邦」訪問は、これまでの僕の価値観を変え、今後の人生に間違いなく影響を与えました。もちろんプラスの糧として大切にしていきたいと思います。

【写真上】29日、一戸駅に到着したとき、出迎えてくださった、サポーターズ代表の湯川さんです。本当に、お世話になりました。

「ぜひ、また岩手にいきたい!!!」これが僕の現在の気持ちです。「岩手にはまだまだ僕の知らない世界が広がっていて、自分の住んでいる地元ではなかなか感じられない、澄んだ水、優しい空気、柔らかい土、大きな森、活きた食べ物、そして何より、人の温かさに溢れている」と思ったからです。ぜひ、また岩手に行こうと思いました。このようなスタディ・ツアーの内容を企画して下さったこと、たくさんの出会いがあったこと、常に楽しく過ごせたこと。今回のスタディ・ツアーをサポートし続けて下さったサポーターズの皆様のおかげだと思っています。心より感謝申し上げます。



【写真右上】9月1日朝、サポーターズの平野さんです。前日から笹渡の公民館での交流会に参加し、そのまま私たちと宿泊されました。これからご自分のお店に、愛車で戻るところです(朝は、種市までバイクでツーリングをされていました)。学生がうるさくて眠れなかったでしょう。申し訳ありません。



【報道】

9月1日、軽米町から盛岡へ移動したあと、サポーターズ代表の湯川さんから携帯電話に連絡が入りました。「岩手日報」の地域版に、30日にお世話になった「門崎むらづくり推進協議会」での体験学習が記事になって掲載されているという連絡でした。「肌で感じた 地域 京都・龍谷大学二戸で交流」という記事です【写真左】。

記事のなかでは、石崎彩さんは、「まちづくりに一生懸命取り組み、外へ発信していこうとする地域の姿に感動した。人々が支え合い自然と共存している地域だと思う」とコメントしています。

2006夏・カシオペア連邦



【1段目左から】テレビ局の取材を受けるとんぐり村村長(赤屋敷信一さん)。(とんぐり村)/天蚕の繭。繭が動きます。命です。(とんぐり村)/甘い甘い、トウモロコシ。(とんぐり村)【2段目左から】炭焼小屋。冬はみんなでここに集まって夢を語り合います。(門崎)/名人の蕎麦打ち。(門崎)/自分で作った“幅広”の蕎麦。(門崎)【3段目左から】みんなで考え隊の出発点となったあずま屋。(笹渡)/軽トラでGO!!(笹渡)/はじめてのハウレンソウの収穫。(笹渡)【4段目左から】笑顔。(IGR)/車内から岩手の風景を撮影。(IGR)/一戸着。親切な車掌さん。(IGR)【5段目左から】タカキビ。(とんぐり村)/水車小屋「浄門庵」。(門崎)/はじめての搾乳体験。(笹渡)

岩手山麓・盛岡にて



【1段目左から】こんなことができるのも学生時代だから？(小岩井農場)/赤トンボが!(小岩井農場)/新鮮なソフトクリーム。(小岩井農場)/美味しいソフトクリーム。(小岩井農場)【2段目左から】草を食む羊たち。(小岩井農場) ここまでは、学生たちの要望で定番の「岩手山麓観光」です。/岩手県立大学総合政策学部の山田先生との交流会。(盛岡市内「沢内甚句」)/県立大学の卒業生も参加。でも、筑摩君は、沈没…。(盛岡市内「沢内甚句」)

【編集後記】

最後までお読みくださり、ありがとうございました。どんぐり村、門崎むらづくり推進協議会、笹渡地区みんなで考え隊の3団体で経験させていただいたこと、5名の学生たちにとって、どれだけすごいことだったかということが、伝わったでしょうか。3団体の皆さんには、改めて、心から御礼を申し上げます。

今回のスタディ・ツアー、「めざせ、カシオペア連邦の大地」の企画は、地域づくりサポーターズの代表をされている湯川さんと、湯川さんの奥様、そして私の3人でカシオペア連邦の将来について語り合っているときに、突然浮かび上がってきました。「その企画、実現させましょう」。この企画は「その場」で実現の方向に一步踏み出しました。「その場」とは岩手県ではありません。JR 京都駅近くにある、今流行りの町家風のカフェ・レストランだったのです。

湯川さんの「その企画、実現させましょう」の一言、京都・伏見の酒の勢いで出てきたわけでないことは、その後の、湯川さんから送られてきた E-mail をみてすぐにわかりました。短い期間で、ここまで企画を練ってくださった湯川さんをはじめサポーターズのスタッフの皆さんにも心から感謝したいと思います。このようなスタディ・ツアーの企画、今年だけのものではなく、カシオペア連邦の地域づくりに少しでも寄与できるものに成長・発展していけばと考えています。どうか皆様のご支援とご協力を、今後もよろしくお願いいたします。

(脇田健一・龍谷大学社会学部教授)